



## 東京教区災害対応チーム 災害情報・九州地震

九州  
008

(表記の変更:「熊本地震」について、本紙面では九州教区での呼称にならない007号以降「九州地震」と記します)

### 【九州教区・九州地震被災者支援室から第五信】

九州教区・九州地震被災者支援室からの情報をお伝えします。

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますよ。

艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」ロマ 8:35

=====

### 九州教区・九州地震被災者支援室より第5信 支援活動～被災者を「孤立させない」ため～の取り組みについて

=====

+主の平和がありますように

はじめに、皆さまのこれまでのお祈りと、ご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

さて、地震発生から三カ月。余震の数は減少しているとは言え、現地ではいまだに震度4程度の揺れが観測されます。いったいいつになったら収束するのか、再度大きな揺れが来るのではないかと、被災者は不安の中、毎日過ごしています。そして梅雨の大雨に加え、合間の猛暑も日々の生活を過酷なものにしています。とにかく生きるのに必死だった人々は、少しずつ今後の生活再建に動き始め、家屋の解体や仮設住宅への入居も始まりました。

九州地震に関する報道が少なくなり、世間の関心が薄れていく中、私たちはこれらの人たちのことを忘れず、小さな取り組みであっても関わりを持ち続けていきたいと考えています。

#### ◆最近の活動から

熊本聖三一教会の信徒たちの生活は一見落ち着きを取り戻していますが、心に負ったダメージが癒されるには時間が必要です。主日礼拝に集い、お互い顔を合わせて苦しい思いを共有する時間が貴重なものとなっています。信徒からも屋根瓦の調整、外壁の亀裂補修、草木の剪定などの依頼が入り、対応しています。

とくに被害の大きかった益城町では、今もなお地震直後とさほど変わらない光景が広がっています。公費による解体や重機の投入を待てない被災者に代わり、私たちが傾いたブロック塀を解体・搬出したり、大量の瓦を処理したり、倒壊した納屋から大切な耕運機を取り出すお手伝いをする事によって、少しでも心の負担を軽くする。そんな取り組みが、私たちにとっても喜びとなっています。テント、ビニールハウス、車庫などで生活をしておられる

家庭への訪問は定期的に継続しており、次第に顔と顔が繋がり、信頼関係が育まれ、さらにその近隣の方々との交わりへと発展してきています。私たちが掲げている「平和の同心円作戦」がまさに実践されている姿です。

全国からボランティアに駆けつけてくださる皆さんは、6月以降、雨と猛暑の中、連日汗と泥にまみれながら活動しています。そして、熊本聖三一ボランティアセンターでは、キッチンボランティアとしておいしい食事や被災者に配布するおかずを作ってくださいる女性陣がいます。それぞれが持てる賜物を活かすことにより支援室活動は支えられています。

これまで、手掛けてきた仕事を列挙すると、次のとおりです。

- 室内の片付け・清掃 ○大型ごみ（家具・家電）搬出 ○外壁修理
- 瓦の調整・処分 ○ブルーシート掛け ○ブロック塀解体・撤去 ○農作業手伝い
- コンテナハウス網戸設置 ○倒壊家屋からの必要品取り出し ○ガレキ分別・撤去
- 引っ越し手伝い ○庭木の剪定

### ◆ボランティア登録延人数は161名。

ボランティア登録延人数は、7月13日現在で161名となりました。九州教区内の各教会はもとより、神戸、大阪、東京、横浜、京都、沖縄、中部、東北、北関東各教区から参加していただき、一緒に働くことができました。とくに神戸教区、横浜教区では、順に教役者を長期で派遣していただき、支援活動の大きな支えになっています。

ボランティアセンターでの毎日は、8時の朝の祈りに始まり、朝食、続いて朝のミーティング、そして活動開始。現場での昼食、休憩をはさみ、およそ17時に活動終了。センターに戻り、夕のミーティング、そして一日の感謝をもって夕の祈りを捧げます。その後はリラックスタイム。一緒に夕食をいただき、語らいの時、入浴など。それぞれのペースで過ごし、翌日に備えて就寝となります。

朝夕の祈りの中で必ず、「九州地震被災者のため」の祈りを捧げます。ある参加者は感心しつつ「こんなふう祈りに始まり祈りに終わるような生活をしたことがない」と感想を漏らす人もいました。老若男女バランスよく集まりワイワイ盛り上がる時も、少人数で静かに過ごす時も、あるいはまた各教区からの教役者が揃い、教役者会または神学校の同窓会のような雰囲気になることもあります。とにかく個性溢れる多種多様な仲間たちが一所に集い、毎日祈りながら、苦しく辛い思いをしている人々のもとへと出かけていく様は、教会の原点を見させられる思いです。

これら貴重なボランティアの力を活かし、被災地の「必要」にマッチさせるためにも、引き続き支援室は努力してまいりたいと思います。

これからとくに必要と見込まれる働きは、避難所などから仮設住宅への引っ越し手伝い、ガレキ撤去、そしてキッチンのお手伝いなどです。

### ◆今後の予定 8月からは月曜日は活動をお休みします。

7月15日の支援室会議において「今後、この活動をより安定し継続させていくために」、毎週月曜日を休養日とし、原則、活動をお休みすることを決定しました。また8月は、12日（金）・13日（土）も活動をお休みといたします。どうぞご了承ください。

### ◆九州教区のウェブサイトをご覧ください！

今も時折「どんな活動をしているの？」と質問を受けます。広報として、当通信文の他にウェブサイトでの情報発信を行っています。ぜひご覧ください。

→「日本聖公会九州教区」を検索。「About us」の「九州地震被災者支援室」をクリック。

さらに、「◎フェイスブック「FaceBook」版はコチラから」をクリック。

これまでの具体的な活動の様子を見ることができます。

ご協力よろしくお願いいたします。

2016年 7月16日  
九州教区主教 ルカ 武藤 謙一  
九州教区・九州地震被災者支援室  
室長 司祭 マルコ柴本 孝夫